

平成23年5月21日

区市町村単位登録団体  
責任者各位

都水泳協会 23-003

(財)東京都水泳協会 会長 濱出 雄三

同 学童委員長 宮崎 友七

## 「東京都学童水泳大会」への児童参加について

(依頼)

平素から、(財)東京都水泳協会の事業等につきましては、多大なご理解とご協力をいただき心から感謝いたしております。

さて、本年度も別紙(大会要項)の通り、第59回「東京都学童水泳大会」を開催することとなりました。「東京都学童水泳大会」は、裏面(歴史)に記しましたように、戦後だけでも58回を迎える伝統のある水泳大会です。また、一定の泳力をもつ小学生ならだれでも参加できる唯一の公式水泳大会です。

貴団体所属の児童の参加につきまして、ご高配くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、小体連後援の大会ですので、選手所属は『小学校』単位となります。

申込書は日水連様式B(ジュニア用個票は不可)を使用しますが、B票使用の場合は、選手登録している方は個人番号を、欄外に記入してください。又B票が無い場合は、同封の個人申込票を、お手数ですが必要枚数コピーしてご使用ください。また個人申込票の記入につきましては、個人申込票裏面の記入要領をご参照ください。

※所属欄には、区市町村名の記入と、学校名にはふりがなを、記入してください。

## 〈参考〉 「東京都学童」水泳大会の歴史

1938年（昭和13年） 8月28日（日） 第1回「国民皆泳の日」学童水泳大会が開かれる。

中央会場 明治神宮プール NHKの放送の合図で全国一斉に行われる。

・明治神宮プールを中央会場とし、全国各地のプール・海・川・池・湖などを活用して、500mリレー（50m×10人）を中心に行われる。

・1944年（昭和19年）までに7回開かれる。

---

1953年（昭和28年） 8月20日（木） 「国民皆泳の日」水泳大会が復活する〔戦後第1回〕

1954年（昭和29年） 8月20日（金） 中央会場 府中市営プール

「伊勢湾横断遠泳の様子」や「山形県寒河江町からの川の水泳の様子」がNHKから放送される。

・記録をたどると、1957年（昭和32年）武蔵野市、1961年（昭和36年）足立区、1962年（昭和37年）田無市、1964年（昭和39年）、1965年（昭和40年）明治神宮プールを中央会場として、「国民皆泳の日」水泳大会が開かれている。

1965年（昭和40年） 標準記録設定

1966年（昭和41年） 8月17日（木） から、中央会場をオリンピックプールにする。

・参加者が次第に増え、中央会場の大会へ出場する資格を得る予選会が、都内の数会場で開催されるようになった。

・昭和40年代後半には、NHKテレビで放映される。

・多摩地区の学童の参加を配慮し、オリンピックプールの他に、立川市営プールに会場を設ける。

・昭和40年代中頃より、スイミングクラブが各地にできるようになり、小学生が参加できる水泳大会も増える。それにつれて、昭和50年代中頃より、「国民皆泳の日」水泳大会への参加者が次第に減る。

・昭和50年代後半から、水泳の普及を考慮し、中央会場については、各都道府県の持ち回りになる。

○平成19年度で日本水泳連盟は、「国民皆泳の日」水泳大会の廃止を決定しました。

東京都水泳協会は、児童の為に「東京都学童水泳大会」として継続していきます。

○小学生なら、だれでも参加できる公式の水泳大会は、この大会だけです。

○生涯スポーツの面からも、「東京都学童水泳大会」を、いっそう盛んにしていきたいものです

○毎年、東京大会の他に、9地区の区や市で大会が開催され、約1500人の学童が参加し、自己の記録に挑戦しています。

○東京都学童水泳大会は、本年、戦後59回を迎えます。